

## C O N T E N T S

## ICAAP、第21回エイズ学会スカラシップ報告 JaNP+最近の活動近況

### 第8回アジア・太平洋国際エイズ会議報告

2007年8月19日から23日までの5日間、スリランカ民主社会主義共和国コロンボ市において第8回アジア太平洋地域国際エイズ会議(ICAAP)



が開催された。エイズの国際会議ではNGOの参加も多く、公式プログラムの開始以前に複数のフォーラムが開催される。そのなかにPositive ForumというHIV陽性者だけの集まりがある。今回はJaNP+からも3名が参加。ネットワーク事業部門・国際担当の川名奈央子さんは、現在アジア太平洋地域陽性者ネットワーク(APN+)の共同代表を務めており、いくつものシンポジウムでアジアの女性HIV陽性者の対場から発言するなど、この会議で重要な役割を果たした。

今回の会議で激しく議論されたのは、WHOとUNAIDSが推進することを決めた医療機関や保健関係者の主導で積極的に検査を進めるべしとするガイドラインに対して、治療が十分に確保されていない状況の中で検査だけを進める意味があるかということ。これまで国際機関はVCTと呼ばれる「受検者が自由意志で決めて、カウンセリングやプライバシーが確保されたうえでの検査」を推奨してきた。そこでこの方針転換に対して、当事者や現場で働く人たちから強い反発が見られた。

さらに、アジア全域でMSM(男性とセックスをする男性)に流行が拡大しており、これに対する対策が議論された。

これらは全く別の問題のように見えるが、根本は同じだ。アジアにおいてはエイズにまつわる偏見や差別など人権上の問題が横たわっている。これが各国のエイズ対策を困難にしているのだが、この本質的な問題に手を付けずに行政、保健、医療などの権威がそれぞれの立場からのエイズ対策を強引に押し進めようという、ある種の焦りが感じられた。

この点は日本のエイズ対策においても全く同じ問題があるのではないだろうか？

(長谷川博史)

### 第21回エイズ学会のシンポジウムと陽性者参加支援スカラシップ

2007年11月28日～30日に広島で行われた、第21回日本エイズ学会学術集会の初日に、当事者団体・支援団体によるシンポジウム「HIV陽性者の治療認識ー医療現場と自助活動の連携・協働の可能性を探るー」が、初めて公式プログラムとして開催されました。JaNP+、ふれいす東京、はばたき福祉事業団、日本慢性疾患セルフマネジメント協会に、今回は開催地の地元の当事者団体である「りょうちゃんず」も加わって行われました。

司会はJaNP+の長谷川博史、はばたき福祉事業団の大平勝美の両氏。パネリストには山本政弘(九州医療センター)、矢島嵩(ふれいす東京)、藤原良次(りょうちゃんず)、池田和子(ACC)の4氏という多彩な顔ぶれで、HIV陽性者の治療認識における相互補完や連携の可能性を探り、重要であるが難しくもあるこのテーマが様々な角度から語られました。中でも「医療者の疲弊」「コミュニケーション・ギャップ」「院内外のネットワークの壁」といった踏み込んだ発言もあり、今後このテーマが建設的に語られうる素地ができたと思われまます。

また、HIV陽性者参加支援スカラシップも昨年に引き続き実施されました。このスカラシップは、上記団体と日本製薬工業会が共同して「HIV陽性者参加支援スカラシップ委員会」を設置・運営し、企業・団体から寄付を集め、HIV陽性者に学会参加支援のためのスカラシップを支給するといったものです。今回は17の企業・団体から寄付をいただき、43名の陽性者に支給することができました。多くのHIV陽性者が学術集会に参加するようになったのは画期的なことで、当事者の視点がより学術の場でも活かされるために、今後も継続が望まれるところです。

シンポジウムの発言概要と、参加者43名の感想文を掲載した報告書が発行されますので、ご覧ください(入手方法等は、各団体までお問い合わせ願います)。

(矢島嵩)

## 情報提供事業 (1)

### 長期療養シリーズ&PLWHAミーティングご案内

「長期療養シリーズ」プロジェクトを、今年もぶれいす東京と協働で進めています。例年は、夏頃までにWEB調査を行い、その結果報告会を兼ねたPLWHAミーティングを9月頃に開催し、年度末までに冊子にまとめる…といった進め方をしてきました。

今年は、「人とつながる、社会とつながる～医療・職場・恋愛・将来～」と題して、HIV陽性者のソーシャルネットワーク（周囲の人や社会とどのように関わりながら生活をしているのか）をテーマとして、国内における先行研究のまとめを行い、複数のフォーカス・グループ・インタビューを実施、その報告会としてPLWHAミーティングを行うことになりました。

現在は冊子の制作に入っており、2008年3月23日にPLWHAミーティングを開催する予定です。このPLWHAミーティングの実施（企画・会場設定・講師依頼・参加者募集・会場案内通知・当日運営・事後処理等）は、JaNP+が行います。

## 情報提供事業 (2)

### 「Living Together REAL」多言語化プロジェクト

現在、厚生労働省戦略研究班が進めている「Living Together REAL」のキャンペーン（詳細は下記URLをクリック！）において、JaNP+は、在日外国人向け情報の多言語化に関するプロジェクトに参加することになりました。主に、APN+など海外の団体との連携を強化し、人的資源と情報のネットワーク化に関するコーディネーターの役割を果たします。



## ネットワーク事業

### 活動グループ立ち上げ支援への取り組み

現在、私は市川班の研究協力の一環として、沖縄のゲイコミュニティにおける活動グループの立ち上げ支援に参加しています。JaNP+では設立当初、HIV陽性者グループの立ち上げ（group development）に関するマニュアルや、スキルス・ビルディングのワークショップモジュールが必要であると考えていました。しかし、こうしたツールは、HIV陽性者グループに限らず、コミュニティの中で動き出そうとする全ての人々に必要なものです。例えば、先述の沖縄に関しては、HIV陽性者の当事者グループよりも、陽性者支援グループの立ち上げが、より緊急の課題であると感じています。

こうした活動について、JaNP+では従来ほとんど進展させることが出来ていませんでしたが、この沖縄における活動グループ立ち上げ支援に関わる過程をきっかけとして、JaNP+のネットワーク事業部門ではGroup Developmentに関するマニュアルの作成を進めます。

すでに、これまで作成途中のマニュアルもありますので、これらを整理したものに、「ピアサポート」、「セルフヘルプ」などの項目を加え、実施プログラムに関するマニュアルなどが加われば、さらに充実したものに出来るのではないかと考えています。

## アドボカシー活動

### HIV陽性者スピーカー研修、無事終了！

2007年11月3日～4日、「HIV陽性者スピーカー研修」が実施されました。この研修は、JaNP+の主力事業の1つとも言える「HIV陽性者スピーカー派遣事業」を支えるもので、試行プログラムを含め今回で4回目となりました。今回の研修は東京都内で行われ、計12時間の研修を、11名が修了しました。HIV陽性者自身が、社会の様々な場面において、当事者としての立場から活動するスピーカー活動においては、様々な要素が求められます。そのため、この研修では、HIVに関する一般的な理解を前提としながらも、スピーチ依頼者のニーズ把握、自らの経験や活動の動機に関する整理、HIV陽性者の多様性についての理解等相互に関連するテーマを取り扱います。時間・内容ともに大変ハードな研修にも関わらず、今回も参加者からはご好評を頂きました。運営スタッフも、回を重ねる毎に研修内容も改良されてきました。

今後に向けた更なる改善のための課題として、ファシリテーターのスキル向上を目的としてマニュアル作成やトレーニングも必要であることが、運営スタッフの間で挙げられました。

## 研究事業

### 厚生労働省エイズ対策研究事業への応募について

これまでJaNP+では、MSM対策に関して、主に市川班に研究協力という立場で関わって来ましたが、そろそろ独自の予算獲得に動くべき時期と判断しました。

そこで、JaNP+では「HIV感染予防個別施策層における保健情報・サービスへのアクセスに関する研究」の分担研究者として応募しました。主任研究者は群馬大学・医学部服部健司先生（医療哲学・教授）、分担研究者は花井十伍さん他一名です。

## 編集後記

またもや、久々の発行となってしまいました…でも前回よりはマシ？と、自分に言い聞かせています。ジャンプの事務所では、何かとトラブル続きで関係者の皆様にご迷惑をおかけしていたPCの入替を完了しました。電話会議もできるそうで、関東以外の活動メンバーも積極的に参加できるようになりそうです。（高久陽介）